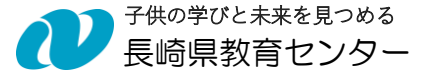


これからの学校と社会を創る



学習指導要領は、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながらこれからの時代に必要な資質・能力を子供たちに育むための「学びの地図」として改訂されました。学校教育を中心に据えて社会全体で子供たちを育てることが求められています。そのためには、教育課程に基づく教育活動の質を向上させるカリキュラム・マネジメントの確立が重要です。

教育センターでは、各学校のカリキュラム・マネジメントの確立を支援するため、「カリキュラム・マネジメント通信」を発行して、最新の情報を発信していきます。

予測困難な時代に一人一人が未来の創り手となる これからの学校教育には、学ぶことと自分の人生や社会とのつながりを実感しながら、学習したことを活用して、諸課題の解決に主体的に生かすことができる人材の育成が求められています。そのためには、学校を外に開き、現実の社会とのかかわりの中で子供たち一人一人の豊かな学びを実現することが必要です。そこで掲げられたのが、「社会に開かれた教育課程」という理念です。

社会に開かれた教育課程 「社会に開かれた教育課程」とは、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会が共有し、求められる資質・能力を身に付けるためにどのような学習内容を、どのように学ぶのかを明確にしながら、社会との連携・協働によりその実現を図っていくことです。

カリキュラム・マネジメント 「社会に開かれた教育課程」を実現するためには、教科横断的な教育活動の見直しやPDCAサイクルの確立、学校運営の改善、家庭や地域との連携・協働など、様々な取組が必要となってきます。その取組の中核となるのがカリキュラム・マネジメントの考え方です。

なぜカリキュラム・マネジメントなのか これまでも各学校において、地域の教育資源を生かした特色ある学校づくりやPDCAサイクルによる学校組織マネジメントなど、様々な取組が行われていました。では、なぜ今回の改訂で改めてカリキュラム・マネジメントが取り上げられるのか、それを次の視点から振り返ってみてください。

- 各学校の実態や教育目標を踏まえ、教育課程に係るPDCAサイクルは適切に実践されているか
- 教育課程の評価においては、全国・県の学力調査の結果や学校評価などが適切に生かされているか
- 学校の課題が全職員で共有され、改善の取組が実践されているか
- 言語能力や問題解決能力など、学習の基盤となる資質・能力は全ての教科等で育成が図られているか
- 教育効果をあげるために地域の教育資源は有効活用されているか

カリキュラム・マネジメントの三つの側面 カリキュラム・マネジメントの充実を図るためのキーワードは「つなぐ」です。以下の三つの側面から、「つなぐ」ことがポイントです。

① 評価と改善をつなぐ(PDCAサイクルの確立)

各学校の教育課程は、評価・改善を積み重ねて質の向上を図る必要があります。その際、学力調査のデータなどの明確な根拠をもとにした評価を行い、具体的な改善策を検討することがポイントです。改善策を反映させた教育課程を実施することで、評価と改善がつながり、PDCAサイクルが円滑に循環するようになります。このサイクルを学校の営みとして実情に応じ、可能なところから定着させましょう。

② 教科等をつなぐ(教科横断的なカリキュラム・デザイン)

教育課程の編成に当たっては、「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」などの学習の基盤となる資質・能力を育成する視点で教科横断的に学習をつなぐことが重要です。各学校で育てたい資質・能力を明確にして、教科等の学びをどう関連付けるか、そのつなぎ方を検討しましょう。

③ 学校の内と外をつなぐ(人的・物的リソースの活用)

地域の教育資源の効果的な活用が教育の質の向上につながります。また、本県の小・中学校では、学校支援会議が組織されています。教育課程の編成・実施に学校支援会議の意見も反映させ、学校と地域が連携していくことが大切です。「我が校だからできる」教育課程の構築を図りましょう。

まずPDCAサイクルの確立を！

本県では、まずPDCAサイクルの確立を最優先課題として取組を始めましょう。

今回のポイント！

PDCAサイクルの確立

- CからAの強化**：学期末の学年部会や教科部会で、教育課程の内容や指導方法を取り上げ、子供の学びの状況をもとに、評価（C）から改善（A）へとつなぎ、サイクルをまわしましょう！
- エビデンスの活用**：評価（C）から改善（A）のプロセスで、全国・県の学力調査の結果などのデータを積極的に活用しましょう！
- 可視化で共通実践**：改善事項を「見える化」して共有し、全職員で実践に取り組みましょう！

管理職のリーダーシップが鍵 カリキュラム・マネジメントは全職員で取り組むものですが、まずは管理職がカリキュラム・マネジメントの意義を十分に理解し、これを踏まえた我が校の取組のビジョンを示すことが大切です。

次号では、岐阜大学大学院の田村知子先生の御講演（学校経営セミナー）の内容を中心にカリキュラム・マネジメントの進め方について紹介します。